

要旨

本研究は中国山東省泗水県で話される漢語泗水方言の動物語彙の形態論について記述的な考察を行った。泗水方言の動物語彙は部分的に標準語普及政策によって変化しているが、かつての特徴を保存している。しかし、対応する漢字や意味が特定できない形態素が散見される。先行研究である王衍軍(2014)では、漢字表記が当て字であることが明らかになっているが、その理由に関する分析はない。本研究では、現地調査で収集したデータと隣接した県のデータを比較して、各方言間の共通点と相違点を挙げた。その上で、動物語彙の各音節において意味をもたないクランベリー形態素がどの程度存在するのかを分析した。その結果、「コウモリ」などの動物語彙の語形成には二音節+/xu213tsi0/というパターンが存在することが判明した。また、四音節語の前半の意味において方言間での一致が難しいという結果も得られた。

キーワード： 漢語泗水方言 記述言語学 動物語彙 形態音韻論 語形成

1. はじめに

1.1 泗水方言について

漢語泗水方言（以下、泗水方言と呼ぶ）は中国山東省泗水県で話されている方言である。泗水県は山東省の中南部にある県である。面積は 1118.11 平方キロメートルである。2020 年の人口調査によると人口は 542895 人である。地形については南と北は高く、中央は低い。南と北にはおおよそ 738.5 平方メートルの丘と山地があり、泗水県の面積の 67%を占めている。中部には 353.2 平方キロメートルの平原地域がある。泗水方言は中国標準語とは声調や語彙の違いがある。特に語彙において動物語彙や動詞などの相違点が多い。泗水方言は主に都市部の人では 30 代と 30 代以上の年齢層の人、都市以外ではほぼ全年齢層の人が使用している。それに対して都市部の若い世代（20 代以下）及び教育を受けた人は「泗水普通話」（語形や文形が標準語のままで、声調のみが異なる）を使用している。発表者が 2021 年に提出した修士論文の「漢語泗水方言の音韻に関する記述的考察」（李、2021）で音韻体系のまとめを試みた。本研究は修士論文の音韻体系を参考しつつ記述したものである。なお、本発表の各音節の末尾に書かれる数字は声調を五段階表記したものであるが、0 はストレスのない声調であることを示す。

1.2 本発表の目的

今回取り扱う方言データは発表者自身で採集した泗水県の北にある高峪郷の白石村のデータに基づくものである。その中で、動物語彙は昔からの方言の特徴を持っており、記述する際には漢字との対応が難しいものもあり（特に一字一音の場合は対応できない）、動物語彙の語形成や形態素分析を研究する価値があると考えている。動物語彙には泗水方言の語彙と泗水普通話の語彙がある。今回は泗水普通話の動物語彙を除き、標準語と相違点がある泗水方言の動物語彙を取り扱っている。本発表は動物語彙を取り扱うことで、動物語彙の語形成のシステムを明らかにする。それをもとに、最終的には名詞句内部の語形成の全体像を描き出すことを目標とする。

2. 先行研究とその問題点

漢語泗水方言における主たる先行研究は王（2014）『泗水方言研究』である。王（2014）では、第三章で動物語彙について詳しく記述している。泗水県でよく見られる動物について家畜と昆虫、魚に分けて説明している。漢語方言の語彙では相当程度一音節ごとに漢字一字を割り当てることができる。しかし、王（2014）の提示したデータは一音節一字で対応できないものが多い。その場合は当て字を用いている。その当て字はどの程度意味を持つ漢字であるのか、すなわち具体的な形態素に相当するのかが不明である。そこで、隣接した県と市（棗庄、兗州、曲阜）の県誌（地方情報を整理した公的な書籍）で記載されたデータを比較しながら、自分のフィールド調査のデータを合わせて分析することによって、泗水方言の動物語彙の語形成のシステムを明らかにしたいと考える。

3. 泗水方言に見られる動物語彙の語形成

泗水方言の動物語彙の語形成については、各形態素の品詞によって以下のタイプに分類している。

3.1 形容詞＋名詞

- | | | | |
|-----|--------------------|-------|------------|
| (1) | /tshaŋ55+tshuŋ0/ | 長虫 | 「蛇」 |
| | 長い + 虫 | | |
| (2) | /ta213+tshuŋ0/ | 大虫 | 「虎」 |
| | 大きい+虫 | | |
| (3) | /pien55+kyci35/ | 扁嘴 | 「アヒル」 |
| | 平たい+口 | | |
| (4) | /pen213+ki35/ | 笨（本）鸡 | 「家で飼っている鶏」 |
| | 頭が悪い+鶏 | | |
| (5) | /xuaŋ55+iu51+tsi0/ | 黄鼬子 | 「イタチ」 |
| | 黄色い+イタチ+接尾辞 | | |

これらの形容詞は動物の体形や状態を表している。

3.2 名詞＋動物語彙の語根

- | | | | |
|------|---------------------|-----|--------------------|
| (6) | /kia35+mo51/ | 家猫 | 「家畜のウサギ」 |
| | 家+ 猫 | | |
| (7) | /ia55+mo51/ | 野猫 | 「ヤマネコ、野良猫」 |
| | 野生+ 猫 | | |
| (8) | /san35+ki35/ | 山鸡 | 「山に生息している鶏に似ている鳥類」 |
| | 山+鶏 | | |
| (9) | /kia35+kyə213+tsi0/ | 家雀子 | 「スズメ」 |
| | 家+スズメ+接尾辞 | | |
| (10) | /ia51+mo51+tsi0/ | 夜猫子 | 「フクロウ」 |
| | 夜+猫+接尾辞 | | |

これらの例をみると、語形成は動物が生息している環境や生態を表す名詞＋動物語彙の語根という組み合わせである。

3.3 動物語彙に意味を持たない音節 /lə/ が割り込むタイプ

(11) /u213+lə33+niu55tsi0/ 蝸了牛子 「カタツムリ」

カタツムリ+lə/

(12) /pa213+lə33+kia55tsi0/ 扒了夹子 (当て字) 「ケムシ」

ケムシ+lə/

(13) /tsan213+lə33+mu213tsi0/ 餐了木子 (当て字) 「キツツキ」

キツツキ+lə/

(11)(12)(13)の語形成は意味を持たない音節/lə/が/u213niu55tsi0/「カタツムリ」/pa213 kia55tsi0/「ケムシ」/tsan213 mu213tsi0/「キツツキ」の中に挿入されたものである。もともと三音節語であったものを意味を持たない形式を入れることで、語形を安定させていると考えられる。

3.4 動物語彙の語根 (+名詞) +接尾辞

(14) /ce51+kyci35+tsi0/ 豺嘴子 「狼」

山犬+口+接尾辞

(15)/xia213+xu33+tsi0/ 蝎虎子 「ヤモリ」

ヤモリ+接尾辞

(16)/san213iaŋ33+xəu55+tsi0/ 山羊猴子 「発情期のオスヤギ」

ヤギ+サル+接尾辞

(14) (15) (16) の例では、動物語彙の語根は主要部である。(16) の場合では、「サル」を後ろにつけ発情期のオスヤギを「サルのようにおとなしくない」で比喻している。

3.5 動物語彙語根の重複

(17) /thiŋ55+thiŋ0/ 蜓蜓 「トンボ」

トンボの語根+語根

泗水方言の場合は単音節語が重複する場合、後ろの声調が轻声になる傾向がある。

例: /ta55ta0/「父親」 /xə35xə0/「母乳を飲む (幼児語)」

3.6 名詞+名詞

(18)/xua35+ke51ti0/ 花盖体 「てんとう虫」

花+布団

上記の例は動物語彙と関係のない名詞と名詞の複合であるの場合、てんとう虫の例 (18) は「花柄の布団」で体の状態を表している。これらは一種のメタファーと考える。

3.7 擬態語+動詞

(19) /khyu213liu33+khyan51/ 曲溜蜷 (当て字) 「ミミズ」

曲がりくねった様子+丸くする

擬態語/khyu213liu33/は曲がりくねった様子を表す。例文を以下に示す

例文 tsa213 lu213 khyu213liu33 kue55uər0 li0.

指示詞 道 曲がりくねった 曲がる 感嘆詞

「これは本当に曲がりくねった道だね。」

3.8 動物の鳴き声

- (20) /mi55mi0/ 咪咪 「猫」(猫を呼ぶ時)
/mo55+mi0/ 猫咪 「猫」(普通に猫を言う時)
猫 + 鳴き声

泗水方言では、猫の鳴き声は二種類あり、一つは/mi55/、一つは/mio55/である。前者は子猫の鳴き声で、後者は一般的な猫の鳴き声である。猫は小型動物であるため、/mi55mi0/ と呼ばれていると考える。普通に猫を言うときは、「猫+鳴き声」を用いる。

3.9 語彙の変遷

- (21) /ce55sən0/ 財神 「ハリネズミ」
(22) /xio55xi213fu33tsi0/ 小媳婦子「ネズミ」

ネズミなどの動物は昔から泗水で縁起が悪いものとされている。(21)(22)に見えるように、縁起の良い名前をつけて、幸運をもたらすものとして捉え直している。(21)では「お金の神様」という名前をつけて、ハリネズミに刺されたらお金持ちになれるという意味である。(22)では元来「妻」という意味である。ネズミには繁殖能力が強いので、親は自分の義理の娘(息子の妻)は多くの孫を生んでほしいという期待から由来している。

*他の四音節語の語形成

- /mien55mien55xu213tsi/ 绵绵糊子(当て字) 「コウモリ」
/ə51laŋ55tsu213tsi0/ □□蜘蛛 「クモ」
/sə51tsuŋ51li213tsi/ 蛇虫粒子(当て字) 「トカゲ」

このほか、四音節語の語形成について問題が多い。上記のうち、以下の4では「コウモリ」と「クモ」を取り扱う。「トカゲ」にはデータが少ないため、今回は語形のみを挙げる。

4. 四音節語における方言間の比較

今回は同じく山東省南西部にある棗庄・曲阜・兗州のデータを比較することで、泗水方言の四音節語の語形成を分析する。

4.1 コウモリ

方言／動物語彙	コウモリ
泗水(音韻表記)	/mien55mien55xu213tsi/
泗水(漢字表記)	绵绵糊子
棗庄(音韻表記)	/iã 55mɔ213xu213tsɿ0/
棗庄(漢字表記)	蜒毛乎子

曲阜（音韻表記）	/miã42miã42xu213tsɿ0/
曲阜（漢字表記）	眠眠乎子
兗州市（音韻表記）	/miã42miã0xu213tsɿ0/
兗州市（漢字表記）	眠眠乎子

曲阜や兗州の漢字表記は同じである。コウモリは夜型の動物なので、漢字「眠」を使用していると考えられる。先行研究では「綿綿」が用いられており、本発表の言語コンサルタントから得たデータも「綿綿」である。「綿綿」は中国標準語では「ふんわりしている様子」の意味で、コウモリが逆様にぶら下がる状態を表すと考えられる。各県の音韻表記を比較することで、/mien55 mien55/の漢字表記には一致しないので、/mien55mien55/には新たな形態素が付加されることがわかる。太田（2014）の『指示対象のズレと特殊な語形変化－「キツツキ」およびその関連語彙を対象に』では民間語源その観点から漢語方言の「コウモリ」の語彙形式を分析している。「この場合は恐らく、夜蝙蝠 iə pian fu もしくは ia pian fu が民間語源で ian pian fu となったというより、syntagmatic な変化によって、ian pian fu となったが先で、当初は本来の正しい語源に回帰できたものが、「民間語源」によって変化後の音声形式に一致する単字音形式を持つ漢字が用いられる結果、その音声形式が固定されて不可逆になってしまったと考えるべきであろう。」（太田 2014 : 34）つまり、語形が不可逆的に変化したあと、新たな解釈が生じ、さらに新たな形態素が付加される。

4.2 クモ

方言／動物語彙	クモ
泗水（音韻表記）	/ə51laŋ55tsu213tsi0/
泗水（漢字表記）	□□珠子
棗庄（音韻表記）	/ə55lo0pfu213tsɿ0/
棗庄（漢字表記）	娥娄珠子
曲阜（音韻表記）	×
曲阜（漢字表記）	×
兗州市（音韻表記）	/ɣə 42laŋ0tsu213tsɿ0/
兗州市（漢字表記）	蛾螂珠子

クモの音表記については、泗水、棗庄と兗州は類似している。しかし、第一音節と第二音節の漢字表記は全く一致しない。しかも各方言で意味を持っていない。したがって第一音節と第二音節はクランベリー形態素であることがわかる。

4.3 キツツキ

方言／動物語彙	キツツキ
泗水（音韻表記）	/tshan213lə33mu213tsi0/
泗水（漢字表記）	餐了木子
棗庄（音韻表記）	×
棗庄（漢字表記）	×
曲阜（音韻表記）	/tshan213lə33mu213tsi0/
曲阜（漢字表記）	餐啦木子（フクロウ）

兗州市（音韻表記）	/tshã42tshã0mu213/
兗州市（漢字表記）	餐餐木

キツツキの泗水方言の音韻表記は 3.3 で記述しているが、以上の比較から、/mu213/は木の意味で、/tshan213/の元の漢字は不明である。それに、曲阜方言では、/tshan213la33mu213tsi0/という語形で、「フクロウ」の意味になっている。意味のズレが生じているのか、誤記なのかを判断するためにも、関連する方言においてデータをさらに収集し、分析する必要がある。

5.まとめ

本発表は動物語彙の語形成について記述を試みた。フィールド調査によって採集した泗水方言のデータでは動物語彙の語形成は 9 タイプに分類される。しかし、大きな問題もある。そのひとつは 4 音節語の処理問題である。先行研究および隣接した県の県誌では 4 音節語にたいして漢字表記の際当て字を用いている。それらの音韻や漢字表記を比較することによって、新たな形態素が付加されるか、もしくは全く意味のないクランベリー形態素なのかを分析した。だが、「キツツキ」における曲阜方言の同じ語形で発生した意味のズレやトカゲとケムシの四音節の動物語彙は県誌に記載されていないため、より詳細なデータを収集し、分析を深めたいと考える。

参考文献：

中国語文献（ピンイン順）

- 泗水县地方史志编纂委员会編 2006《泗水县志》济南：山东人民出版社
 山东省曲阜市地方志编纂委员会編 1993《曲阜市志》济南：齐鲁书社
 山东省兗州市地方史志编纂委员会 1997《兗州市志》济南：山东人民出版社
 王衍军 2014《泗水方言研究》广州：暨南大学出版社
 枣庄市地方史志编纂委员会編 1993《枣庄市志》北京：中华书局

日本語文献（アルファベット順）

- 李仁治 2021「漢語泗水方言の音韻に関する記述的考察」神戸市外国語大学大学院 2020 年度修士論文
 太田斎 2014『指示対象のズレと特殊な語形変化(1)－「キツツキ」およびその関連語彙を対象に』神戸外大論叢、64 (4), 63－96 (2014—03—01)